

令和 2 年度

事業所名： グループホーム ほほえみ すずらん棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100219		
法人名	株式会社 海山会		
事業所名	グループホーム ほほえみ すずらん棟		
所在地	〒028-7911 岩手県九戸郡洋野町種市41-15-2		
自己評価作成日	令和2年10月26日	評価結果市町村受理日	令和3年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特殊浴槽、中間浴槽、一般浴を設置しており、利用者の身体状況やその日の状態に合わせて、安全に入浴していただける。また、重度の利用者様の受け入れや、看取りケアもできるよう、医療的ケア研修への積極的な参加や、看護師を配置し主治医、家族と連携をとりながらケアを行なっている。  
ケアの部分だけではなく、利用者、家族、来客者の方に気持ちよく利用していただく為に、挨拶等の接遇に力を入れている。  
また、百歳体操の実施場所とし会議室を開放したり、地域防災協力隊を結成するなど地域の方々との交流関係や協力体制が出来ている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養や障害者施設で経験を積んだ施設長と総括マネージャーは、太平洋を望む高台にあった旧角の浜小中学校跡地で、平成24年から「小規模多機能ホームまごころ」を運営し、地域の認知症高齢者の介護支援に尽力してきた。その後、介護度が高くなってもしのりらしい生活が送れる施設を目指し、隣接地に2ユニットの当グループホームを開設し、3年目を迎えている。重度化が進むことを前提に中間浴槽(リフト浴)、特殊浴槽(機械浴)も整備し、積極的に介護度の高い高齢者を受け入れ、現在の利用者は、介護度4以上が13名と7割以上を占め、殆どの利用者が車椅子を利用している。これからも、医療的ケアや看取りも含めホームとして出来る限りの支援を続けたいとしている。「小規模多機能ホームまごころ」で培ってきた地域との信頼関係が当ホームの運営にも活かされ、開設間もないが利用者も職員も地域に溶け込んで生活出来ている。地域の一大イベントに成長した法人恒例の夏祭りはコロナ禍のため中止となったが、地域高齢者を招いた百歳体操は毎週継続しており、本年度からは、地域の関係者と協力して徘徊高齢者への声掛け訓練を始めるなど、積極的に地域との連携に取り組んでいる。コロナ後には、「認知症カフェ」を開設したいとしており、一層の活躍が期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年3月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらん棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りや、職員会議等で都度、基本理念について触れている。また個人面談等でも話をし共有し実践できているものの、不十分である。	隣接の小規模多機能ホームまごころと共通の理念「安心、安らぎ、真心」に基づき、ユニット共通の介護目標を毎年度定めている。本年度は昨年度のケアサービスの反省をもとに「一日一回の大笑い、しつこいくらいの確認(二度確認の励行)、KYO(気配り・やさしさ・思いやり)」を設定し、ケア手法の共有化を図るとともに、職員は一人一人、日々の介護での実践の成果や課題を職員会議等で発表している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの影響により、積極的は交流は行っていないも、百歳体操の講師を行い、交流を図っている。	本年度は、多くの地域の方々に参加いただき一大イベントになりつつあった夏祭りを内部だけで実施し、小中学校等との交流も中止するなど、地域とのお付き合いは自粛してきた。そうした中でも、理学療法士資格を持つりんどう棟の管理者が講師を務める「百歳体操」は、会議室で毎週継続して実施し、地域の高齢者が集う機会になっている。また、地域婦人会や近隣の方々が利用者を気遣ってくれ、料理や海産物、野菜などの差し入れを度々いただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	11月に包括支援センター職員、地域住民、職員で徘徊時の声かけ訓練を実施予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接する小規模多機能ホームと合同で定期的に関催し、事故報告等も行い、参加者から意見を頂き、業務に生かしている。	本年度は、運営状況をまとめた資料の送付による書面会議になっている。新年度からは、参集による会議を開きたいとしている。民生委員のメンバーから、地域に独居の高齢者が多くなってきており、認知症も心配なことから、ホームと情報を共有しながら連携して支援していきたいという意見があり、コロナ後には、ホームの利用者も参加できる「認知症カフェ」の立ち上げを検討したいとしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらん棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場や包括だけではなく、広域連合や居宅のケアマネとも密に連携を取りながら、サービスを提供している。また、地域ケア介護等へも積極的に参加している。	役場担当課や地域包括支援センターとは、開設当初から連絡、相談を密にしている。施設長が広域連合の介護認定審査会委員に就いている。本年度、地域包括支援センターが中心になり、地域の「認知症高齢者SOSネットワーク」を立ち上げ、徘徊の可能性がある地域の高齢者等に関し、各介護事業者間でネットによる情報交換を始めるなど、行政、事業所、地域との連携、協力は円滑に行われている。11月には、当ホームの職員が徘徊者に扮し、民生委員、警察、消防、地域住民が連携して対応する訓練を実施した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に月1回は必ず職員会議で、話し合っている。自傷行為等利用者の身体に危険な場合を除き、身体拘束に当てはまるような支援方法は取っておらずミトンやベットの必要性を話し合っ 常にではなく、適宜使用するよう取り組んでいる。	両ユニットの管理者、職員各1名、看護師の5名で構成される「身体拘束廃止委員会」を毎月開催し、話し合いの結果を職員会議で職員に周知している。これまで、自傷行為防止のための介護用のつなぎや眼科医の指示で目を自傷しないよう介護用ミトンを使用した例はあるが、使用の必要性、使用の時期、期間や解除の見通し等を話し合い、カンファレンス記録に整理しながら、拘束の3要件を満たさなくなった段階で使用を中止している。車椅子利用時等で咄嗟に制止言葉が飛び出すことがあり、職員間でスピーチロックに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	最低、年1回は内部研修で行っている。また、日々の業務においても、言葉使いや対応等に注意し、適宜職員会議等で注意喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師による外部研修を行い、業務に生かせるようにしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらん棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前にきちんと重要事項説明書、契約書等の説明を行なっている。また金額等の変更の際は文面や電話等で説明を行い、同意を得ている。また、金銭管理同意書を作成し、小遣いの管理を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で、情報交換等を行っている。また、面会の際や受診後は必ず職員が、利用者の様子等を報告し情報交換を行っている。	家族がコロナ禍の中でも毎月の利用料支払いに 来所することから、近況報告をしたり、情報の交換を行っている。面会制限も理解してもらっており、家族の方が気を使ってくれる場面が多い。今年、利用者から家族に向けた年賀状づくりの支援に特に力を入れた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や職員会議の場で意見を聞いている。	職員からは、毎月の職員会議・ケア会議、日々のミーティングで積極的に意見等が出される。また、ユニット合同で食事、排泄、入浴、レク・余暇、環境、身体拘束廃止の6委員会を組織しており、それぞれの委員会活動を通じて改善提案も出される。代表取締役・管理者が年度末に一人一人と面談を行っており、仕事の振り返りや次年度の目標さらには個人的な悩みも含め、率直な話し合いを行うようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭環境や年齢に合わせた業務や勤務時間を 勘案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護初任者研修や実務者研修、医療的ケア研修等の研修費用の負担や毎月の内部研修等で本人のスキルアップを行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回の外部講師による研修には、他事業所からの参加を募ったり、研修会への参加等行なっているが不十分である。		



事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらん棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みや契約の時点で情報収集をおこない、職員会議や朝の申し送り等で周知している。また、可能な限り、ご本人様とも面談し、直接話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階や、調査の段階で家族からの話を傾聴し、関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所の説明だけでなく、必要と思われる他のサービスの説明や情報を提示し、他事業所のケアマネにつなぐこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員主体の支援にならないように出来ることは行ってもらい、話しを聞くだけでなく、職員側から積極的に話しかけるようにしお互いに楽しく過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来てもらえるようにしており、普段の様子や受診に行った結果等こまめに連絡をし、話し合いながらより良く支援していけるような関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブに出かけたりした時は知っている場所に行ったりして喜んで頂けるよう支援に努めている。家族の面会はあるも、馴染みの方等の面会はあまりない。	利用者の高齢化により、昔からの知人、友人が訪問してくれる機会は少なくなっている。隣接の小規模多機能ホームに通う知人も面会制限下で足が遠のいている。民生委員さんでもある床屋さんさんが2か月に1回髪のカットに来所し、お馴染みさんになっており、世間話や昔語りなどを通じて楽しい時間をつくってくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人や家族の方の話し、意向を優先的になにかしら変化等あった場合は家族の方に連絡、報告し相談しながら希望に添えるよう努めている。		

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらん棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中や他事業所に移った場合でも、定期的な面会や、可能な限り担当ケアマネと情報交換等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の方の話し、意向を優先的ににかしら 変化等あった場合は家族の方に連絡、報告し相談しながら希望に添えるよう努めている。	りんどう棟では、折り紙や編み物等の創作活動が出来ることが多く、好きなことに取り組んでいる。すずらん棟の皆さんからは食べ物の希望が多く、家族の差し入れから好物が分かり、提供するようになった例もある。傾聴ボランティアの経験が豊富な職員(ケアマネ)の対応に学びながら、一人一人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前に、担当ケアマネや家族から情報提供をしてもらっている。また可能な限り、本人からも聞き取りを行うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕の2回職員で申し送りをを行い現状を把握している。又、各棟ごとの申し送りノートと全体の申し送りノートを用意し、出勤した職員は必ず目を通して現状把握してから勤務にあたるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各棟居室担当にモニタリングを行ってもらい、他の職員の意見も聞きながらケアプラン作成を行っている。事前に家族の方にも電話等で連絡を取り希望を聞いて現状に適したプラン作成を行っている。	ユニット別に職員全員が参加する毎月のケア会議では、職員が輪番で進行役を務め、居室担当のモニタリング報告をもとに利用者全員でケアプランの取り組み状況を話し合い、必要に応じ、計画作成担当者が見直しを行う。特に現状のプランで問題ない場合は、6か月毎の見直しを基本としている。その際には、必ず家族の希望や意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	休み等でいなかった職員にも分かりやすいように各棟、用途、利用者と分けて記録記入している。即実行できる事はその経過も記録して後の支援に活かしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらん棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画外のサービスや緊急受診等にも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域住民の協力を得ながら安全な暮らしを支援できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体力等を考慮し、可能な方は往診にて対応している。また、家族には経過の報告をしている。特変があった場合は緊急受診として早急に対応できている。また、緊急受診の前後の情報等も家族には報告している。	職員同行で国保種市病院に3人が通院している。種市病院の主治医は、入院歴のある利用者については、退院後も訪問診療にあってくれている。そのほか、町内のクリニックの訪問診療を受診している利用者もいる。歯科も訪問診療により治療している。大部分の利用者は、職員同行で隣市の認知症専門病院の定期診療を受けている。これらの受診結果については、家族に適時に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が出勤しているときは、利用者の身体状態の変化や気が付いた事などを相談しながら支援を行っている。又、適切に受診対応できるように相談している。また、看護師不在の時は隣接している、小規模多機能の看護師とも連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	実際に病院に行き、利用者の状況を確認し、職員に情報提供している。また、家族や病院との連携を密にとり、退院の準備等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会社で統一した様式を作成し、家族に意向の聞き取りを行っている。また、契約時に当事業所で行っている看取りについての説明を行い、できる限り事業所で看取りケアが出来るようにしている。	重度化に対応出来るよう、特殊、中間、一般の3種類の浴槽を整備し、開設時から比較的介護度の高い人を受け入れている。開設時には、医療を必要としない限りホームで極力支援することなど、重度化や看取りに対するホームの考え方を指針により説明し、同意を得ている。これまで看取りは行っていないが、町内クリニックの医師と看取り対応の協議を行い、看取りの体制は整いつつある。両ユニットに1部屋ずつ宿泊の部屋も用意している。経管栄養や痰吸引等の医療的ケアも含め、ターミナルケアに関する職員研修にも力を入れている。	介護度の高い利用者が多く、加齢も加わり、今後看取り実施の可能性が増してくることから、かかりつけ医や協力医との連携、協力体制の一層の明確化が望まれるところです。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成したり、緊急時の対応について内部研修を行い、全職員が対応できるように指導している。また年に1回の避難訓練時に消防による救命救急も行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害のマニュアルを整えており、何かあった際はすぐに動けるよう職員には指導している。また、何かあった場合は地域防災協力隊との協力体制は出来ている。	灯油、ガスを日常的に使っていることから、定期的に小規模多機能ホームと合同で火災避難訓練を実施している。今年は5月と9月に実施し、9月は16時から夜間想定の実践を行った。地域防災協力隊の方々にも参加していただき、玄関からの誘導と見守りをお願いしている。海拔34mの高台にあり、津波や豪雨の二次避難所に指定されている(一次避難所は新しい小学校)。災害対応のみならず、緊急時の対応全体についても、年2回研修を行っている。自家発電装置等の災害用備品を整え、食料の備蓄も行っている。	避難訓練や緊急時の対応に熱心に取り組む、地域との協力関係も確立しており、評価される場所ですが、介護度の高い利用者が多いことから、定期的な避難訓練に加え、リハビリも兼ねて避難経路を外まで歩く「ミニ訓練」を日常的、継続的に実施されることも期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務に追われると、言葉使いが乱暴になる職員もいたため、随時注意している。入浴時や更衣、トイレ介助などの時は戸やカーテンを閉めてできる限り見えないように配慮している。訪室、巡視の際にも一言声をかけてから入室するように対応している。	管理者は、事務的な対応になりがちな若い職員に対して、入浴での1対1の対応、トイレへの誘導や介助対応において、自分の親であれば嫌がるであろう対応についても、想像力を働かせ利用者の尊厳を傷つけないようにしようと繰り返し注意を喚起している。同意を得てからの居室入室や携帯での家族との会話等に介入しないなど、プライバシーを守ることに留意して支援に当たっている。	



事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらん棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を話しやすい環境作りを心がけている。又、意思疎通困難な利用者の方は家族の方に希望や意見を聞き支援に反映させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体であることを常に意識して支援にあたっている。一人一人の希望や習慣も違うのでその方のペースを大切に、個別の支援も疎かにならないようにし支援にあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りは全職員丁寧に行うように取り組んでいる。奇数月には床屋に来てもらい身だしなみをしっかり 整えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事委員会を中心に一人一人にあった食事形態での提供をしており、好み等も一覧表にし職員が把握しやすいようにしている。又、職員も一緒に片付けや食器拭きをコミュニケーションを取りながら行っている。	調理を主業務とする介護職員を中心に構成する「食事委員会」において、嗜好調査による利用者の好みや栄養バランスに配慮しながら1か月分の献立を作成している。3、4日分の食材を購入し、勤務割により当番職員が調理している。両ユニットの厨房が隣合わせになっており、協力しながら準備している。すずらん棟3人、りんどう棟1人が全介助を必要としており、おいしく食べてもらえるよう刻みやとろみ食も工夫している。職員は食事介助や見守りを行い、一緒に食事を摂ることはしていないが、利用者が楽しく食事できるよう雰囲気を盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員会が毎月のメニューを作成し、そのメニューを基本に量や栄養バランス、一人一人の好み等に合わせて提供している。食事時以外にもお茶等の水分補給は適宜行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをおこない見守りや一部介助にて口腔ケアを行っている。又、歯科医に往診に来てもらって必要な利用者の方は治療を行っている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらん棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入して一人一人の排泄パターンを分かりやすいようにしている。又、尿量等の傾向を確認しながら日中はオムツからリハパンにするなどして臨機応変に対応している。	「排泄委員会」で、一人一人の排泄パターン、尿量等に合わせたおむつ交換、リハビリパンツとパットの大きさの調整、日中のおむつからリハパンツへの交換使用等、きめ細かく検討し、個々の利用者に合わせた支援を行っている。両ユニット合わせ、8割近くがおむつ使用であり、夜間は3時間毎のおむつ交換になっている。家族の経費負担増もあり、漏れないようなおむつの使い方や交換の方法などを工夫し、使用頻度の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分アップ等あまり下剤に頼らないようにしている。下剤使用も含め排泄専用の記録を残して周期の把握をしなるべく利用者の負担にならないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているがその日の状況によって入浴して頂く順番を決めて、一人一人ゆっくり入浴して頂いている。	すずらん棟には一般浴槽と特殊浴槽(機械浴)、りんどう棟には一般浴槽と中間浴槽(リフト浴)があり、必要な介護や介助の状態により、使い分けをしている。週2回の入浴を基本とし、午前、午後を使って一日6、7人に30~40分程度、ゆっくりと入浴してもらっており、着脱から入浴まで職員2人で介助に当たっている。脱衣室は床暖房になっており、冬季でもゆっくりと着替えが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に応じた時間や室内灯の明るさを各職員が把握し昼夜逆転にならないように生活リズムも考慮して夜間良眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に薬の情報、確認し作用、副作用を確実に理解するようにしている。服用して頂く前には職員複数で声かけ、チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等の作業を一緒に行ったり 折り紙やカルタ取りなどを行い利用者各々の残存機能を把握しつつ楽しんでいただけるように工夫しながら支援をしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらん棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに行く場所を変えてドライブに出かけている。あまり遠くに行けない利用者の方々には外に出て、おやつを召し上がって頂いたり、夏祭りを開催し家族の方々や地域の方々にも参加してもらったりし無理のないよう協力しあいながら支援に繋げている。	天気の良い日は、小学校跡地の広い敷地内をゆっくりと散歩している。コロナ禍で外出の機会が激減している。春のお花見は中止したが、秋は小規模多機能ホームの紅葉狩りに便乗して楽しんだ。1時間位のミニドライブで馴染みの場所巡りも行った。介護度が高くなってきているが、コロナ後は、出来るだけ外の景色を楽しむ企画を考えたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理同意書を作成し、家族の方に説明・承諾をもらい事業所側でおこずかいを預かり、受診や身の回りの物を購入したり適宜使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用し、家族の方に自分でかけている利用者の方もいる。又、遠方に住んでいる家族の方から定期的に電話や手紙がくる利用者の方もお都度、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温、湿度は季節状況によってエアコン等を調整し常に快適に過ごせるようにしている。浴室には床暖房を設置しておりストーブと併用し、着脱時寒くないようにしている。ホールでは利用者の好みに合わせて演歌をかけたりし快適に過ごしていただけるよう工夫している。	ホールの天井は木目調、クロスは、すずらん棟が淡いピンク色、りんどう棟が黄色で、明るく開放感のある共用空間になっている。りんどう棟は、利用者が作った折り紙やお雛様の作品がたくさん飾られ、華やいで見える。一方、すずらん棟は、装飾品をあまり飾らず、落ち着いた雰囲気の特徴である。朝夕、職員が清掃、アルコール除染を行い、定期的にワックスがけを行うなど、清潔で安心な環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースを広く取って車イスの方も一緒にテレビを見たり、体操等のレク活動を利用者全員で行えるようにしている。ソファや椅子もあるので一人でゆっくりとテレビを見たりすることもできる。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらん棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	以前自宅で使用していたものや、家族からのプ レゼントなどを居室に飾るなどし、利用者の方が 安心して過ごせるよう、各居室担当中心に取り組 んでいる。	電動ベッド、小タンスが備え付けで、カーテンで仕 切った収納クローゼットにカラーボックスや収納 ケースに持ち込み品や衣類を整理している。壁 にホワイトボードが設置され、誕生日等には居室 担当職員がコメントを書き入れるなど、利用者、 家族とのコミュニケーションづくりに活かされてい る。家族写真や書初め、折り紙等の作品を飾り、 利用者個々が自分の部屋として過ごしやすいよ う工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づく り 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	居室から廊下、玄関まで手すりが設置されており 外出時等スムーズに歩行できるようにしている。 また居室入り口やトイレ入り口などのほとんどの 入口ドアのレールに段差がないのでつまずいて 転倒する 危険性が少なくなっている。		